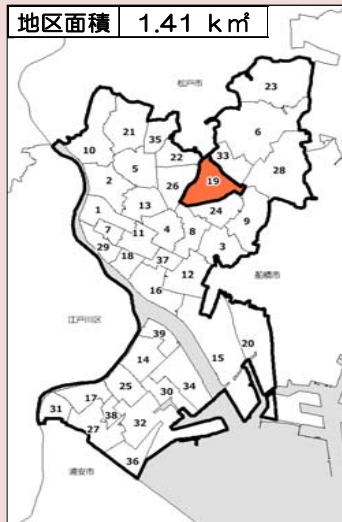


19 宮久保小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

宮久保小学校区は市の北東部に位置しています。地区の東側は大柏川、南側は派川大柏川、南西側は真間川に面しています。また、地区の北側は松戸市に隣接しています。

◆地形・土地利用

地形は、台地と後背湿地で構成され高低差があります。地区の西側は第一種低層住居専用地域等の住宅地となっており、戸建て住宅等が多く建ち並んでいます。また、地区内には生産緑地も多く、地区内に存在する生産緑地の面積は柏井小学校に次いで2番目です。

◆都市基盤

地区の東側に県道180号線が、西側には県道51号線が通っています。また、地区内には、JR本八幡駅行きの京成バスが通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

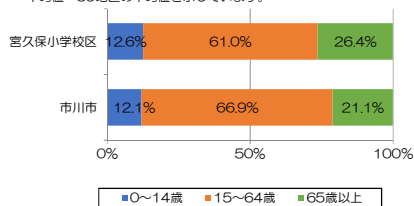
年齢別割合

	宮久保小学校区	市川市	割合※
人口総数	13,067人	487,621人	2.7%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 12,503人

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の人口は、全地区の平均人口よりやや多いです。また、市全体と比較すると15～64歳の割合が低く、比較的若い世代が少ない地区となっています。

◆建物

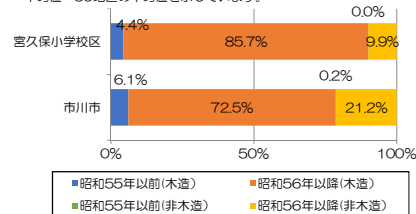
構造別割合

	宮久保小学校区	市川市	割合※
建物総数	4,625 棟	114,958 棟	4.0%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 2,948棟

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の建物は、全地区の平均棟数より多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合がやや高いです。また、木造建物が多い地区となっています。

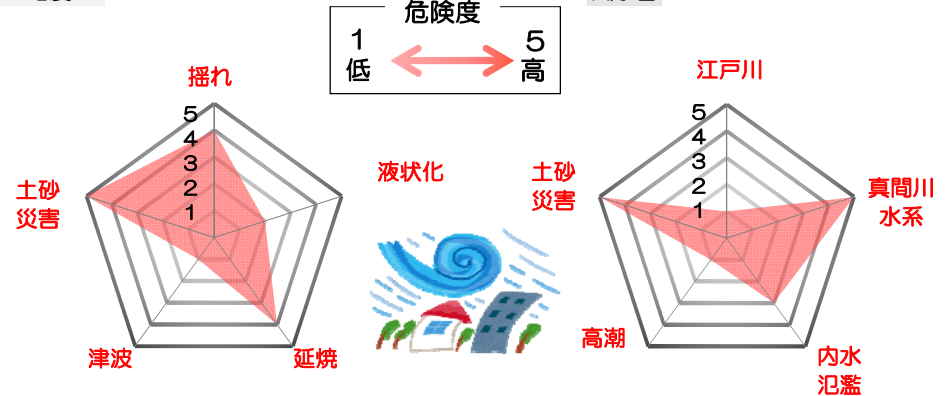
(4) 災害リスク評価

市川市防災カルテ < 宮久保小学校区 >

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。なお、危険性がない場合でも1となります。

◆災害に対する弱み（マイナス面）

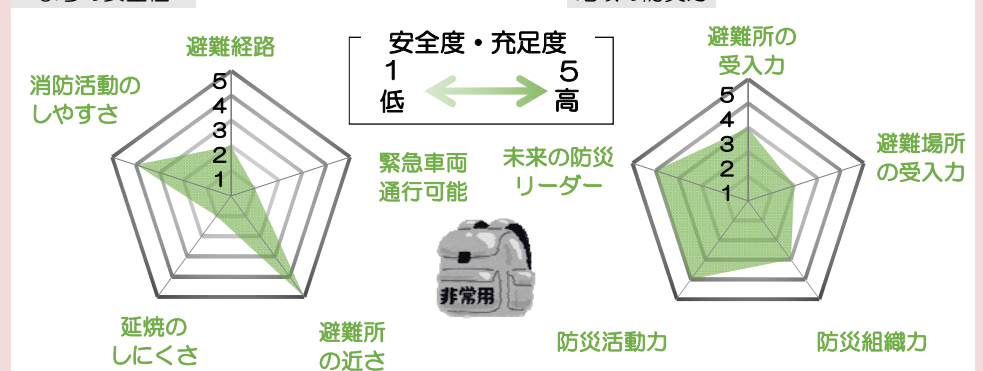
地震



◆災害に対する強み（プラス面）

まちの安全性

地域の防災力



◆評価

宮久保小学校区は、地震災害については、最大震度6弱の揺れが予測され、揺れや延焼による危険性が高い傾向にあります。また、風水害については、真間川及び大柏川に面していることから、真間川水系の氾濫による危険性、がけ崩れ危険区域があることから、土砂災害による危険性が高い傾向にあります。

一方で、まちの安全性については、避難所の近さや消防活動のしやすさは高い傾向にあるものの、避難経路や緊急車両通行可能、延焼のしにくさは低い傾向にあります。また、地域の防災力については、防災活動力は比較的高い傾向にあるものの、避難場所の受入力は低い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
宮久保小学校	-		
下貝塚中学校	-		
宮久保老人いこいの家	-		

◆避難場所

名称
宮久保小学校
下貝塚中学校
宮久保老人いこいの家

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設（公設）	なし		医療救護所	宮久保小学校
			関連施設	なし
			-	
			-	
			-	

要配慮者利用施設（民設）

1



※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

(6) 被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

	想定項目	宮久保小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	2.2%	3.6%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	13.8%	16.0%
	焼失棟数の割合	9.4%	4.6%
	浸水棟数（津波）の割合	0.0%	0.8%
人的被害	死者の割合	0.1%	0.1%
	負傷者の割合	1.1%	0.9%
	避難者の割合	5.9%	7.3%



◆風水害（被害を受ける割合）

	想定項目	宮久保小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	11.3%	52.0%
	浸水棟数（真間川）の割合	19.3%	13.6%
	浸水棟数（内水）の割合	0.9%	20.5%
	浸水棟数（高潮）の割合	0.0%	1.5%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、木造建物が多いこともあり、焼失棟数の割合がやや高い傾向にあります。また、人的被害については死者、避難者はほぼ同程度ですが、負傷者については、市よりやや少なくなっています。

一方で、風水害については、真間川や派川大柏川の氾濫による影響が大きくなっており、市全体と比較すると、浸水棟数も多くなっています。

(7) 防災上の課題

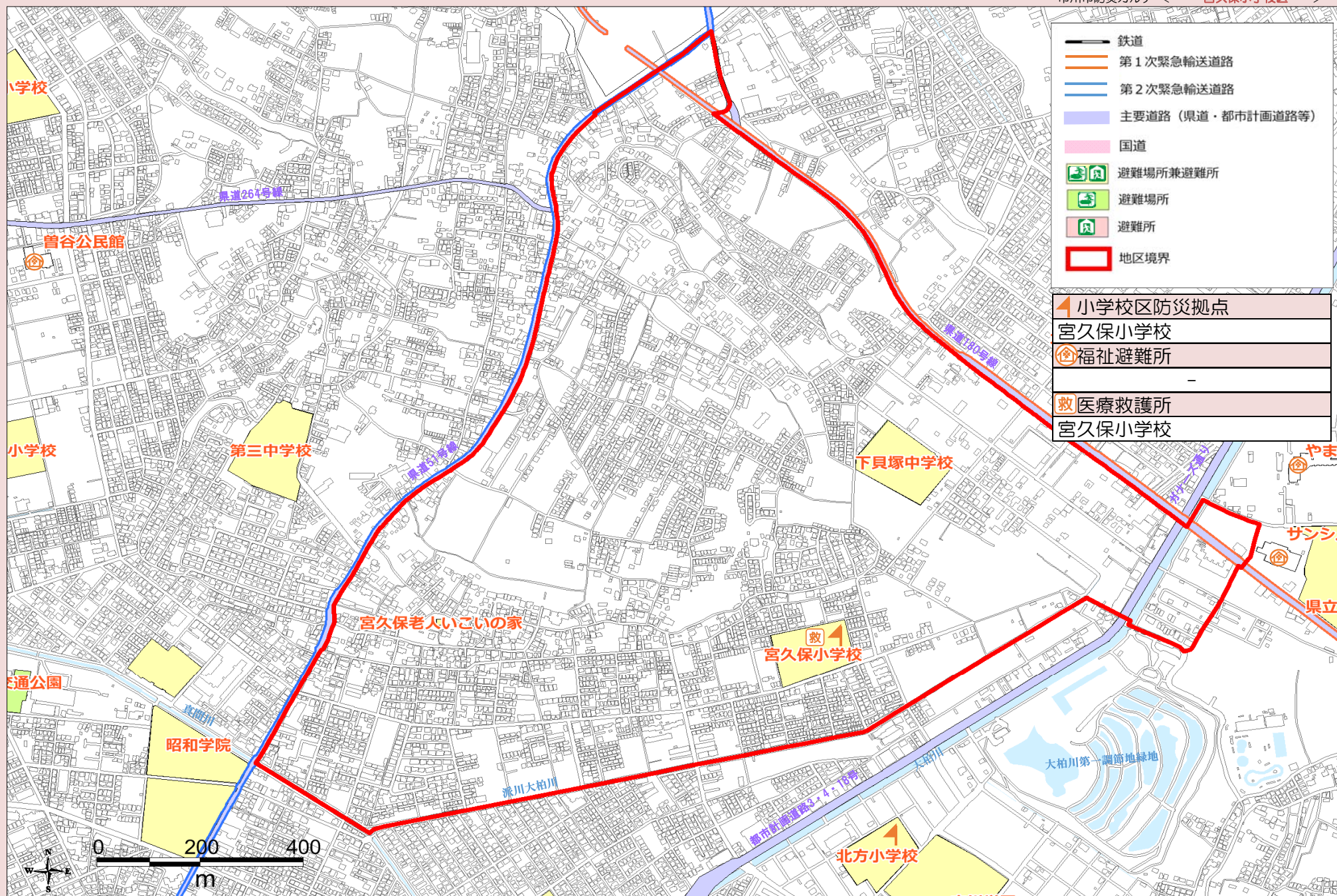
項目	課題
地震	地区の一部地域において、最大震度6強の揺れが予測され、揺れや延焼による危険性が高くなっていることから、耐震対策や延焼対策が重要です。
風水害	地区の南側に真間川及び派川大柏川が面していることから、浸水被害の恐れがあります。過去には道路冠水も発生していることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区内には、狭い道路が多いことから、避難ルート等の確保が重要です。また、延焼遮断となる空地が少ないことから、初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区内では、避難場所・避難所の充足度が低いことから、自宅での在宅避難や地区外での避難に備えることが重要です。また、防災活動力が低くなっており、地区内の防災活動力を高めていくことが重要です。

(8) 防災対策の方向性

項目	取組の方向性
地域の取組	地区内では、狭い道路が多く、避難ルートや緊急車両が通る道の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止と、日頃から安全なルートを確認しておくことが重要です。 また、災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、比較的高い防災活動力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、揺れによる危険性が高いことから、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を活用し、家庭内での感震ブレーカーの設置や「家具の転落防止」を利用した家具の固定等対策を行う必要があります。地区内では過去にも液状化による被害を受けていることから、あらかじめ減災マップ等で液状化危険度を確認しておくなどの対策が必要です。 一方、風水害に対する備えとしては、真間川の氾濫による危険性が考えられることから、大雨時等の避難場所や避難所について確認しておく必要があります。また、自宅等への浸水を防ぐため、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置、土のうステーション等を利用した土のうの設置による浸水対策の対策を行うことも重要です。 地区内にはかけ崩れ危険箇所があることから、まちあるきをする等、あらかじめ危険箇所を確認しておく必要があります。

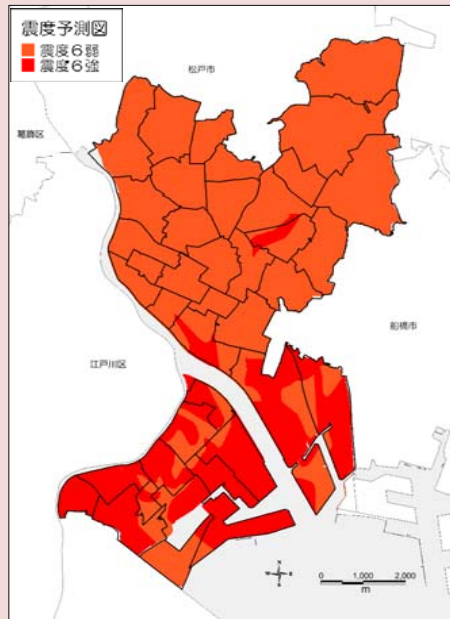
(9) 防災マップ

市川市防災カルテ < 宮久保小学校区 >



(10) 基礎資料

①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度6強と予測されています。

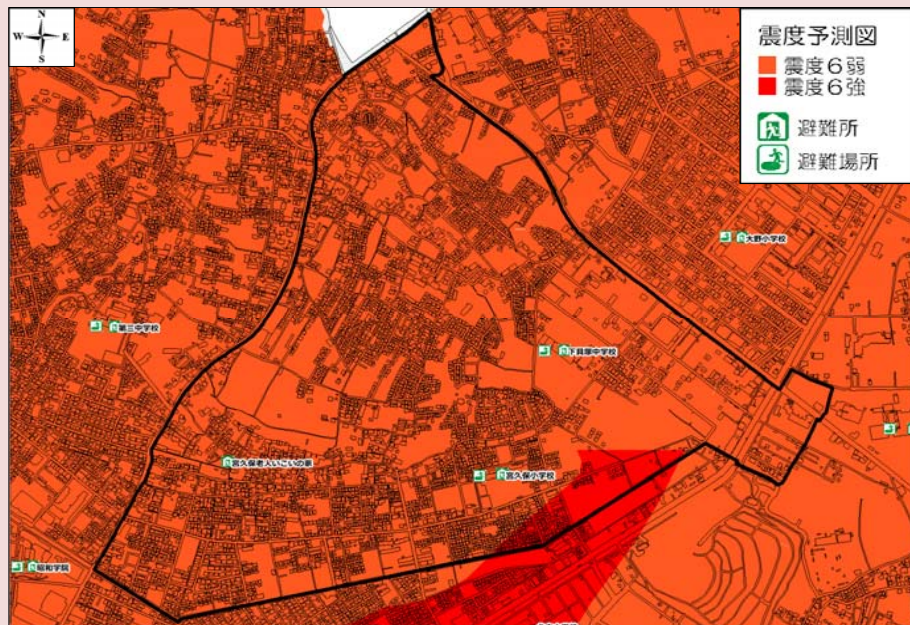
想定地震	東京湾北部地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：20km程度)

▼震源

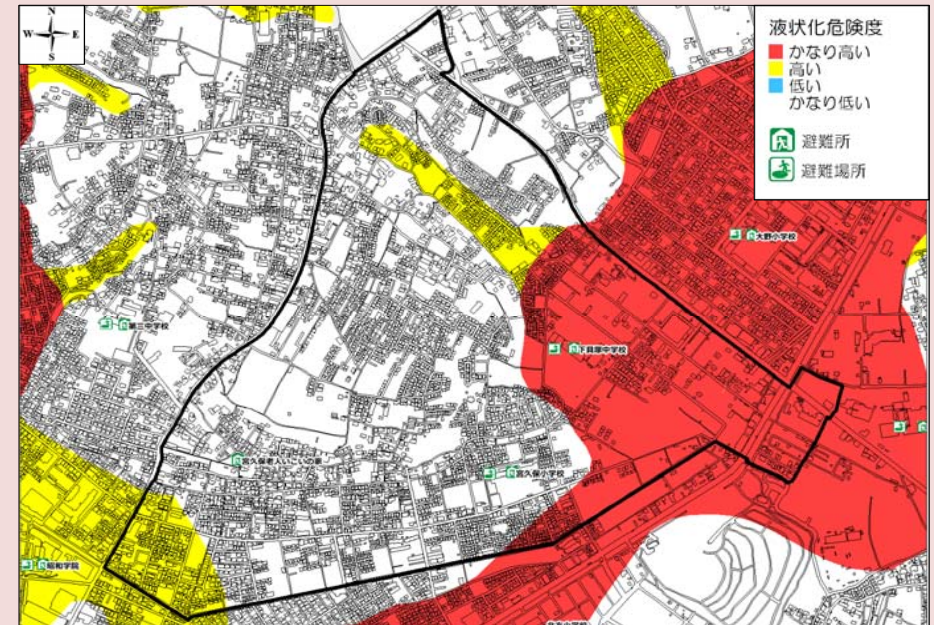


※本結果は市川市地震被害想定結果（平成24年度）に基づいています。

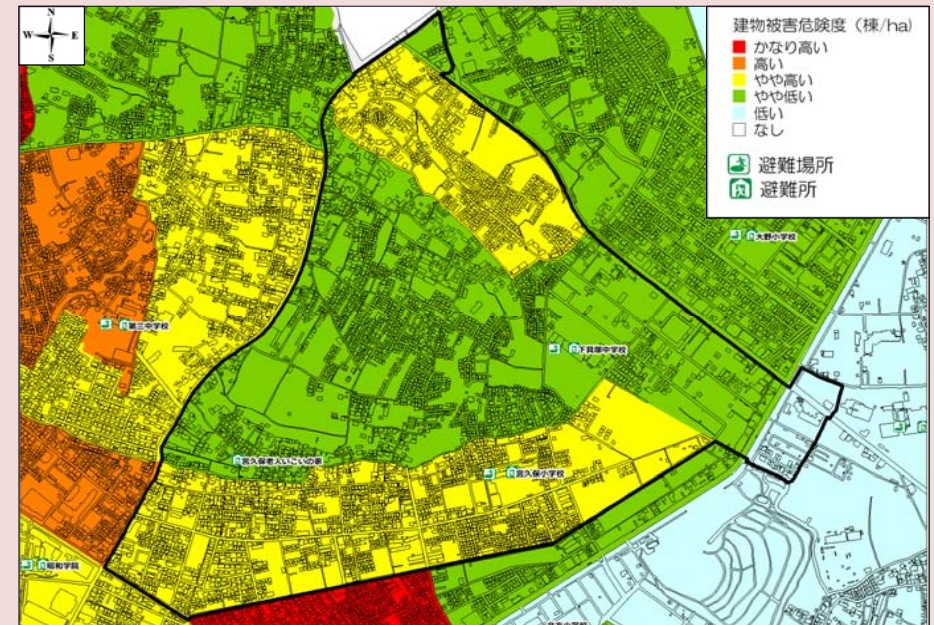
②震度分布図



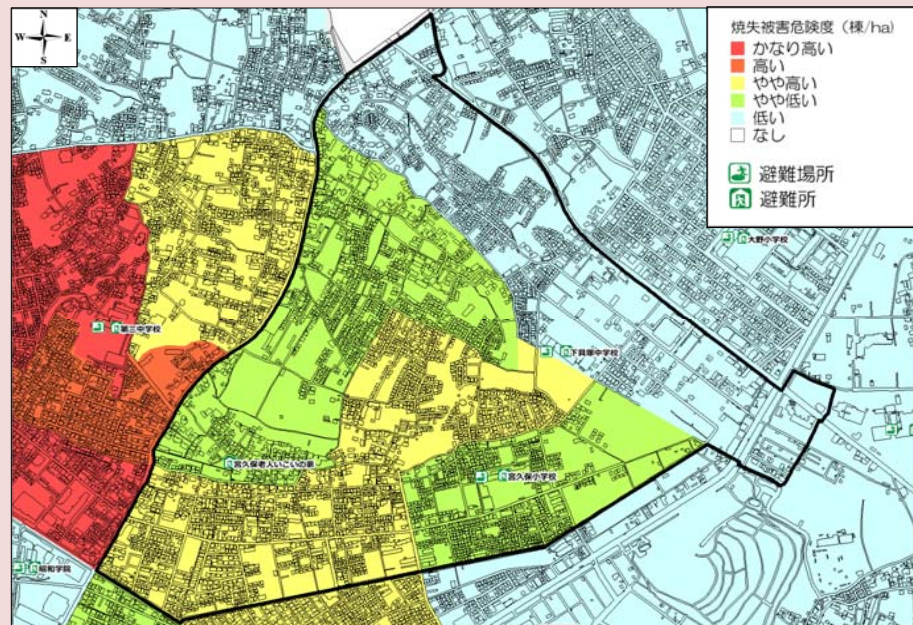
③液状化危険度



④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

水の深さ

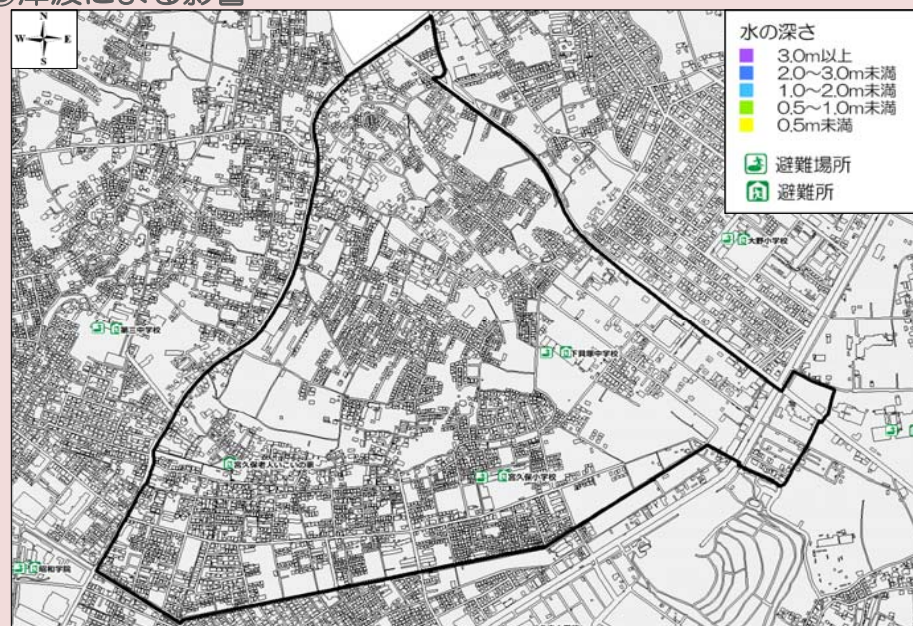
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0～3.0m未満
- 水の深さが1.0～2.0m未満
- 水の深さが0.5～1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

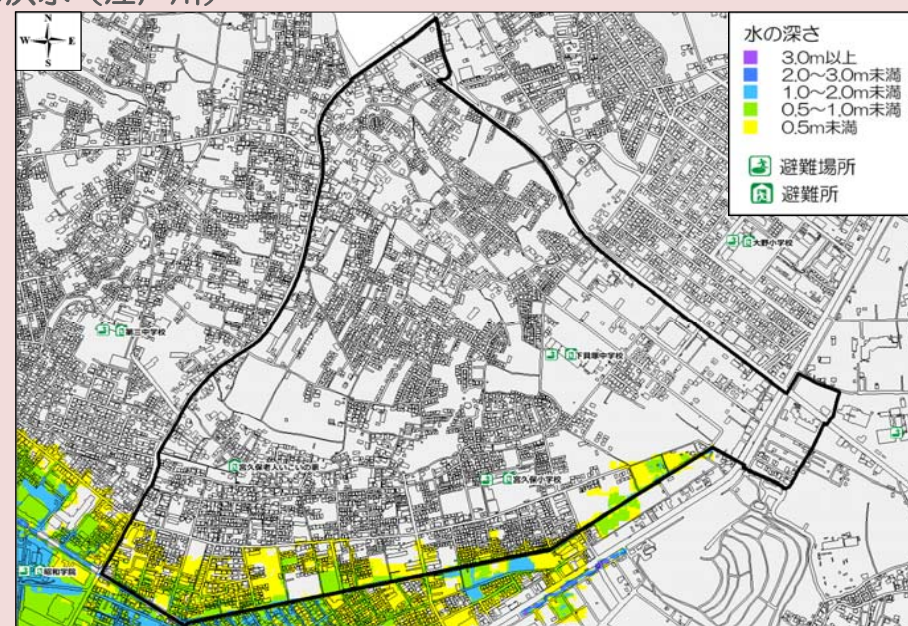
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

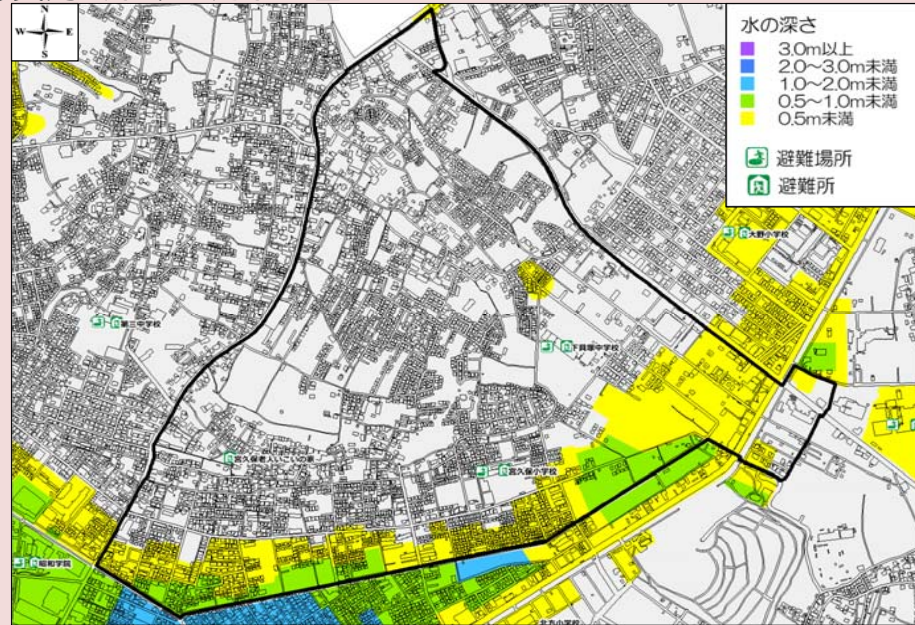
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）



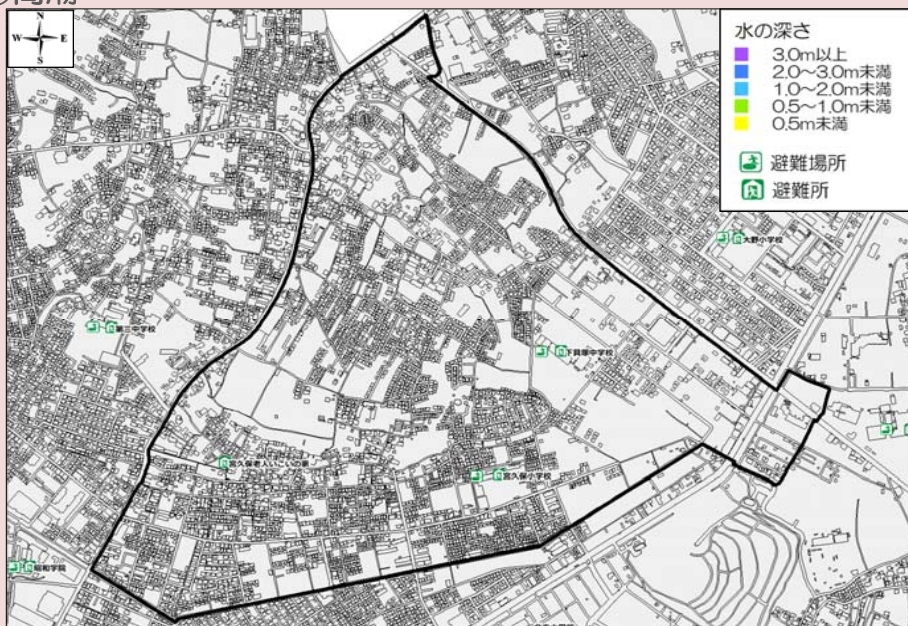
平成29年7月：国土交通省

⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省

◆メモ

